

3 調査研究業務の概要

平成15年度実施課題一覧

①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
感染症の発生拡大防止 安全性確保 に関する研究	SRSV を原因とするウイルス性食中毒の高感度検出法の開発	食中毒の原因となる SRSV の高感度検査法を分子生物学的手法を用いて開発する。	13-15年度	P12 P109 P119
	エイズ予防対策としての福岡県における HIV-1分離株の解析	福岡県下で分離された HIV-1分離株の遺伝子型や薬剤耐性変異を解析し、エイズ予防対策の基礎資料とする。	13-15年度	P14 P110 P123
	インフルエンザウイルスの流行株の解析	アマンタジン耐性ウイルスの出現・流行の監視、耐性株の解析及び新たな変異株の抗原性及び病原性の解析を行う。	13-15年度	P14 P111 P127
	食品からの赤痢菌の検出法、及び分子疫学的手法による感染源特定方法の開発研究	新型の寒天平板培地の開発を含めて、赤痢菌を被汚染食品から、精度よく迅速に分離する手法の開発及び分子疫学的手法の検討、開発を行う。	15-16年度	P12
	レジオネラ宿主アメーバの公衆浴場等での分布及び生態に関する研究	公衆浴場のレジオネラ対策のため、レジオネラの宿主であるアメーバの公衆浴場における分布状況の把握を行うとともに、アメーバ汚染とレジオネラ汚染の関連を解明する。	15-16年度	P12
	容器包装詰低酸性食品のボツリヌス食中毒に対するリスク評価	気密性容器保存食品の保存温度条件とボツリヌス菌芽胞の発芽・増殖性についての検討を行い、同食品の保存過程の衛生管理条件を提言する。	15-16年度	P12
ダイオキシン類、有害化防止とその対策に関する研究	食品中のダイオキシン類及びその関連化合物に関する調査研究	食品中のダイオキシン類分析法について、環境にやさしく簡便かつ高精度な微量分析法の確立を目指すとともに、主要農産物等の汚染実態調査を行う。	14-16年度	P16
	食品中有害臭素化合物の汚染実態の解明に関する研究	臭素化ジフェニールエーテル及び臭素化ダイオキシン類の微量分析法の確立を目指すとともに、その汚染実態を明らかにする。	14-16年度	P16
	油症及びダイオキシン類に関する研究 ーダイオキシン類追跡調査及び体外排出に関する研究ー	血中 PCDF 等のダイオキシン類濃度を測定するため、迅速・高精度分析法を開発する。これらのデータはダイオキシン類の人体影響解明に使用され、アジア諸国のダイオキシン研究の技術支援も行う。	13-15年度	P16 P113 P135
	ダイオキシン類の排泄促進に関する研究 ーダイオキシンの人体汚染防止及び食生活指針に関する研究ー	ダイオキシンの吸収及び排泄機構の解明と排泄促進法の開発を目的とし、ダイオキシンの消化管吸収を抑制し、体外に排泄促進する方法及び体内に蓄積したダイオキシンを消化管経由で体外に排除する方法を解明する。	13-15年度	P16 P113 P135

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
	DNA 損傷試験の動物個体への応用に関する研究	H11～12年度に開発した「酵素免疫学的手法による DNA 損傷試験法」を用いた、DNA 損傷を抑制する食品成分の検索を動物個体を用いた試験系に応用する。	15-17年度	P14
地域保健情報の解析・評価及びその活用に関する研究	福岡県における主要死因分析（1973年から2002年の30年間のまとめ）	昭和48年（1973年）から平成14年（2002年）までの30年間にわたる本県の人口動態（死亡）統計から死亡率を地理的（市区町村別）、時系列的に求め、地域差と年次変化を分析し、本県の死亡構造を明らかにする。	15-16年度	P7
	油症検診を支援する患者データベースの構築	油症患者の全国統一検診データ（昭和61年度以降）をデータベース化し、検診現場で過去の検診データがパソコンで閲覧できるようにする。	15-17年度	P7

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質に関する研究	大気中ダイオキシン類関連化合物の植物葉への沈着状況解明のためのモデル植物葉試作と大気長期計測法の開発	人工的な代理表面（モデル葉）を使用し、大気から植物葉へのダイオキシン類関連物質の移行を解明する。また、代理表面を用いた大気中ダイオキシン類関連物質の簡易長期計測手法の開発を目的とする。	14-15年度	P10 P114 P139
	底質中のダイオキシン類の処理に関する研究	底質中に蓄積されたダイオキシン類を処理するため、ダイオキシン類の処理技術に関する情報を収集し、どの技術が大牟田川底質に適用できるかを検討・評価する。	14-15年度	P10 P115 P143
	ダイオキシン類データベースの構築と解析及び簡易分析法開発への応用	これまでにを行った環境中のダイオキシン類調査結果をデータベース化し、種々の解析を行い、調査結果の評価、汚染原因究明調査、汚染防止対策に役立つ知見を提供するとともに、このデータベースを利用して TEQ 指標異性体を検索し、簡易測定法を開発する。	15-17年度	P10
大気環境汚染とその対策に関する研究	揮発性有機化合物（VOC）汚染解析に対するパッシブサンプリング法の実証化研究	揮発性有機化合物汚染事例等の汚染機構解明のために、独自に開発したパッシブサンプリング法等を実証的に用い、汚染防止及び浄化対策への提言を行う。	14-16年度	P18
	浮遊粒子状物質（SPM）による大気汚染の解析についてー自動車排出ガスによる影響を中心としてー	福岡県には浮遊粒子状物質（SPM）の環境基準未達成の地点があるが、その汚染機構の解明は未だなされていらない。そこで、汚染原因の解析とその対策を検討する。	14-16年度	P18
	北部九州における黄砂の影響に関する研究ー春季における高 SPM 現象との関係についてー	ここ数年増加している黄砂の定量的な把握を行うとともに、浮遊粒子状物質（SPM）に対する黄砂の寄与率及び黄砂に伴う人為的汚染物質の長距離移流による影響について調査研究する。	15-17年度	P18

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
	大気有害物質削減技術に関する実証試験－高活性炭素繊維を用いた大気浄化技術－	平成12～14年度に実施した高活性炭素繊維（ACF）を用いた窒素酸化物類の除去に関する室内基礎実験の結果をもとに強制採気型及び自然通風型の2タイプの大気浄化システムの設計、製作し、戸外における実証試験を行う。	15-18年度	P18
水環境汚染とその対策に関する研究	排水中の栄養塩類の流出形態及びその除去に関する研究	栄養塩類の排出源である事業場排水の排出特性を把握するとともに、排水処理技術に関する知見を提供する。	15-17年度	P20
廃棄物の安全性と有効利用に関する研究	循環資源有効利用技術の開発及びリサイクル資源の環境安全性に関する研究 －食品残さ、生ごみの有効利用に関する研究－	食品リサイクル法の施行に伴い、食品残さや生ゴミのリサイクルの必要性が高まっている。そこで、食品残さのリン肥料化技術や食品廃棄物からリン吸着剤を製造する技術を開発する。	14-16年度 〔16年度中止〕	P22
	循環資源有効利用技術の開発及びリサイクル資源の環境安全性に関する研究 －焼却灰の有効利用技術に関する研究－	県で推進している RDF 発電施設から発生する焼却灰をはじめ、都市ゴミ焼却灰を建設資材として有効利用するために必要な技術の検討及び安全等の評価を行う。	14-16年度	P22
	廃棄物埋立処分場の適正管理に関する研究	処分場の状況を実験室レベルで再現し、処分場における事故について、その要因等の検討を行う。また、熱赤外線画像装置を用いたリモートセンシング法及び微生物の解析による診断法の有効性について検討する。	13-15年度	P22 P116 P145
福岡県の自然環境保全と生物多様性に関する研究	福岡県内に生育する希少植物の保全生態学的研究	県内の希少植物（ガシヤモク、リュウキンカ、ハンノキ林、ハマボウ林）を対象に、生育実態を把握するとともに、生育に適した環境条件や繁殖特性などを解明し、保全・管理手法を検討する。	15-17年度	P24
	里山の再生・修復に関する研究	里山の生物多様性の評価方法、生息・生育する動植物間の相互作用等を調査・解析するとともに、地域住民、NPO 等の参加による里山の再生・修復手法について検討する。	15-17年度	P24
理学的要因による環境影響とその対策に関する研究	生活環境中のラドン等の動態と低減化に関する研究	地下水中ラドン濃度の実態とその分布を調べ、水中から屋内への移行過程と空間分布からラドンの動態とヒトに与える線量評価を行う。さらに、ラドンの除去方法について検討する。	14-15年度	P20 P117 P149
	低周波騒音を制御する防音壁の開発	低周波騒音に対しては、音源対策以外に十分な対策技術がなく、近年苦情が増加している。そこで、伝搬経路上で有効に機能する防音壁を開発する。	14-16年度	P8
計	28 課題			